



蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 24

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚

河内屋旅館

昭和10(1935)年頃・山本町

河内屋旅館の前は「長瀬橋」という旧鉄道省営バス(後の国鉄バス)の停留所で、琴平から山本町を通して観音寺へ行く国鉄バスと、財田から山本町を経由し観音寺へ行く三豊バスが通っており、交通の要所となっていた。

「思い出の1ページ」

神原将弘さん(72)は河内屋旅館に生まれ育ちました。「明治の初め頃、このあたりは金毘羅街道に沿った宿場町で、特に伊予から金毘羅さんに参拝しようとする宿泊客でにぎわっていたと、祖母から聞きました。私が子どもの頃は、旅館は主に、祖母と母が経営していましたが、忙しい時分は、伯母やいとこも来て家族総出で手伝っていました。かまどでお米を炊く火の番や井戸の水を汲んできお風呂を沸かすのは、私の日課でした。弟の子守りも小学校小学生のときは、まだ小さい弟をおんぶひもで背負って学校に行つて勉強していました。周りの友達も連れてきていましたよ。田んぼや家事で忙しい家族を手伝う、そういう時代でした。時季には家の前の財田川でそれはもうたくさん、胴丸籠いっぱいに鮎が取れたのは懐かしいですね。鮎は焼いて、旅館の食事にしたり、父の同僚に差し上げたりしました。今はもうすっかりいなくなっちゃいましたけどね。また家の前は国鉄バスと三豊バスが交わる交通の要所で

した。乗り換え待ちの人が、うちの祖母と世間話をして、話し込んで乗り遅れるなんてこともありました。それで『もう歩いて帰るわ』って(笑)。この場所、たくさんのお客さんに出会い、いろんな話を聞いて人生勉強をさせてもらったと感じます」



市

民対話集会が終わりました。今年も7会場で行った。いろいろな質問や意見が出ました。行政側が問題だと思つていることを市民の皆さんも「これは問題だ」と思つていることもあれば、行政側が思いもよらない疑問や考えを持つていたり…。一人ひとりがまちづくりについて真剣に考えているのだなあと、改めて感じました。

市民の皆さんは、たくさんアイデアを持っています。職員として市の情報をお知らせすることも大切ですが、いろいろなところにアンテナを張り巡らせて皆さんの声を聞くことは、もっと大切なことだと痛感しました。

後記 編集